

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 8 1 号

【平成 27 年 10 月 2 日 (金) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. 9月集中豪雨災害で、県・県議会議長に復旧支援を要請。募金運動も展開
2. 担い手サポートセンターが発足。沿岸 5 J A から全県域に支援を拡大
3. TPP「拙速な譲歩許すな」。小野寺五典、伊藤信太郎衆議院議員に緊急要請
4. 全国からの復興支援に感謝し「獲るぞ！日本一」。宮城全共に向け宮城県決起大会
5. 3品種ともおいしさに太鼓判。みやぎの環境保全米 新米試食会
6. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 49 次請求

1. 9月集中豪雨災害で、県・県議会議長に復旧支援を要請。募金運動も展開

9月10日から11日にかけて関東・東北地方を襲った記録的な豪雨被害を受けて、J A グループ宮城は、日、中央会の石川壽一会長を本部長とする「平成 27 年 9 月集中豪雨災害対策本部」を立ち上げました (写真㉔)。被害状況の把握に努めると共に、14日には、県と県議会に、早期の激甚災害指定や農地、農道、用排水路など、農業生産基盤の早期復旧などを要請しました。

石川本部長、中央会の竹中智夫常務らが、県庁を訪れ、村井嘉浩知事宛ての要請書を後藤康宏農林水産部長に手渡しました。県議会では安藤俊威議長と渥美巖副議長に直接手渡しました (写真㉕)。

石川本部長は16日には、水稻や大豆などの冠水被害を受けた、J A あさひな、J A 古川、J A 栗っこを回り、被害状況を確認しました。泥をかぶった大豆の圃場を案内した、J A 古川の佐々木稔組合長は「大豆の収穫は厳しい」と語りました (写真㉖)。

災害対策本部は25日、緊急会議を開き、被災した農家の一日も早い復旧を支援するため、県内一斉に J A 役職員の募金運動をすることを決めました。期間は10月31日まで。募金の目安は1口200円とし、役員・管理職は5口以上、一般職員は3口以上としました。



加えて、県内14JAは一律10万円、中央会、農林中央金庫仙台支店、全農県本部、共済連県本部は合わせて1,000万円の災害見舞金を贈ることにしました。JAの本・支店には募金箱を設置し、組合員にも協力を呼び掛けることにしました。

2. 担い手サポートセンターが発足。沿岸5JAから全県域に支援を拡大

担い手経営体を育成、支援するためJA宮城中央会は1日、「担い手サポートセンター」を設置しました。昨年10月に「担い手経営体支援チーム」を発足させ、これまでは東日本大震災で被災した沿岸5JAを支援対象としてきましたが、これを拡充・強化し県下全域で支援事業の加速化を進めます。



同日の開所式で石川壽一会長は「現場では、JAだけでは対応が難しい担い手経営体のニーズ・課題も多くなっている。農業所得の最大化を図るため、サポートセンターの充実した支援活動を大いに期待している」と、激励しました。同センターは中央会営農農政部内に設置。尾本満雄部長がセンター長を務め、4人の県営農相談支援員を配置。中央会、農林中央金庫仙台支店、JA全農みやぎ、JA共済連宮城で構成する「担い手連携プロジェクト」と連携して、支援事業を展開していきます。

3. TPP「拙速な譲歩許すな」。小野寺五典、伊藤信太郎衆議院議員に緊急要請

TPP交渉参加国が大筋合意を目指して9月30日から、アメリカのアトランタで閣僚会合を開くことになったのを受けて、JA宮城中央会と県農協政治連盟は9月26日は小野寺五典衆議院議員に、同28日は公明党の井上義久幹事長に、同29日には自民党県連会長である伊藤信太郎衆議院議員に、国会決議を守り拙速な譲歩をしないよう強く要請しました。

小野寺議員は「非常に厳しい情勢だが、要請に応えられるよう最後まで頑張る」、伊藤議員は「国会決議を守ったどうかを判断するのは農業者でありJAである。決議を守ったと言える交渉にしてほしいと、党の会合で発言した。勝手な妥結をしないよう、しっかり圧力をかけている」と語りました。

4. 全国からの復興支援に感謝し「獲るぞ！ 日本一」。宮城全共に向け宮城県決起大会

第・回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会は9月7日、仙台市宮城野区の夢メッセみやぎで、宮城県決起大会を開き関係者が一丸となって日本一を目指すことを確認しました。県実行委員会会長の若生正博副知事は「宮城全共は、東日本大震災からの復興に取り組むうえで大きな波及効果をもたらす。『獲るぞ！ 全共



マスコットキャラクター「牛政宗」も加わり闘（とき）の声をあげた

日本一』をめざし一層努力し、何が何でも日本一を目指そう。また、復興に感謝の気持ちを込めて、観光宮城を全国に発信したい」と語りました。

J A宮城中央会の石川壽一会長は「震災からの着実な復興を全国に発信でき、本県の畜産振興にとって絶好のチャンス。全国からの支援に感謝の気持ちを込めて盛り上げていきたい」と語りました。

大会では生産者代表などが決意表明。宮城県が誇る「仙台牛」ブランドの全国への発信と消費拡大を目指す、宮城県の食・観光・物産・歴史文化などを全国へ発信する、東日本大震災からの復興と全国からの支援に感謝の気持ちを伝える一などの大会宣言を採択しました。

宮城全共は2017年9月7日から11日まで5日間開催。全国39道府県から、種牛の部（会場：夢メッセみやぎ）と肉牛の部（会場：仙台市中央卸売市場）に、合わせて517頭が出品される予定で、約39万人の来場を見込んでいます。

5. 3品種ともおいしさに太鼓判。みやぎの環境保全米 新米試食会

みやぎの環境保全米県民会議とJ Aグループ宮城は9月28日、2015年産みやぎの環境保全米新米試食会を開きました。J A栗っこ産「ひとめぼれ」、J A古川産「ササニシキ」、J Aみやぎ仙南産「つや姫」の3品種を食べ比べし、猛暑や豪雨を乗り越えて実った新米おいしさを確認しました。

安藤俊威県議会議員、県議会議員、県民会議のメンバーに加えて、プロサッカーチーム・仙台ベガルタレディースとプロバスケットチーム・仙台89ERS



「ベガッ太」君も登場し、会場を盛り上げました

（エイティナイナズ）の選手ら約60人が参加しました。品種当てで、3品種すべて当てた人も外れた人も、新米のおいしさを堪能し、いっぱいお代わりしていました。

6. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第49次請求

J Aグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は9月25日、総会を開き、東電への第49次請求を1億3,785万円とすることを決め、30日に請求しました。

内訳は、原木シイタケほだ木の廃棄に伴う損害が1億968万円、牧草の利用自粛等にかかわる損害が2,231万円、牧草地の除染にかかわる損害が552万円など。

9月24日現在、同協議会の請求総額は315億9,050万円、受領総額は291億2,960万円で、請求対比92.2%となっています。

以上